

2. 元茨木川緑地公園

江戸時代より茨木川は川幅が狭く天井川であり、たびたび氾濫を起こしていた。

1937年(昭和12年)度重なる洪水を防ぐため、田中付近で茨木川を安威川に合流させる工事が始まる。

1969年(昭和45年度)3月茨木川の旧流路を元茨木川緑地として整備することが都市計画決定される。計画決定面積は、約20ha(道路の敷設は計画にはなかった)。

1989年(平成元年)3月、元茨木川緑地整備計画が完了。延長5km、施工面積は、約13ha(4万坪)安威川との合流に伴い廃川となった旧茨木川の流路が、公園として整備されたものです。全長は南北5Km以上にも及び、グリーンベルトを形成しています。

茨木市の市街地中央を貫き、道路が併設されている。この道路には中央公園より北側を「川端通り」、南側を「桜通り」と愛称がつけられています。

園路が南北に整備され、ハイキングコースとなっており、各所に遊具や花壇、水景施設が設置されています。

桜の名所としても知られ、毎年4月には「茨木市民さくらまつり」が開催されています。

ソメイヨシノ以外の品種も多く植えられています。サクラの他に、クスノキやケヤキ、カシ、ハナミズキなど約40樹種70000本が植栽されています。

姉妹都市内海町から送られてきた

「オリーブの木」が植えられた「オリーブの木の園」があります。

さらに南部には約80本の梅園が整備された梅林があります。

平成2年には、「大阪みどりの百選」に選ばれました。

元茨木川緑地には、橋や樋(川から水を引いた水門)跡の石碑が多く点在しています。意識して歩けば、道をくぐるトンネルや、土手のようなところがあったり、緑地脇の交差点やバス停に「橋」のつく名前が多かったり、川だった名残りがたくさんあることに気づきます。

元茨木川緑地公園の最南端には、沢良宜公園やグラウンドがあり、2000年に中国安徽省安慶市人民政府から寄贈された、2頭の石製のライオンが公園の方を見えています。沢良宜公園を北に進むと、元茨木川緑地梅林があり、デイキャンプ場があり、まちの中でも日中テントを張ってバーベキューも楽しめる場所もあります。

※ デイキャンプ場は、高浜町エリアのみになり、期間限定です。

